
27号

北海道がんセンターたより

平成18年6月発行

独立行政法人国立病院機構 北海道がんセンター

〒003-0804 札幌市白石区菊水4条2丁目3-54 TEL 011-811-9111

□ ホームページ <http://www.sap-cc.org>

編集発行人: 山下 幸紀



北海道がんセンターの理念

私たちは、国民の健康で幸福な生活のため、最新の知識と医療技術をもとに、良質で信頼ある医療の提供に努め、特に「がん克服」に寄与することを目指します。このため、

- 常に、医療の質と技術の向上を目指します。
- 研究、教育研修を推進し、医療・医学の発展に寄与します。
- 患者さんの権利を尊重し、誠実な医療を実践します。
- 自主自律、創意工夫の精神で病院運営に当たります。

前立腺がんの診断 —その課題と有名人の前立腺がん



泌尿器科医長 永森 聡

今回は前立腺がんの診断における二つの課題と、それにまつわる有名人の前立腺がんについて少しお話し致します。

まず課題の一つ目は、早期の前立腺がんは他のがんでは診断の主力となるCT、超音波検査ではうまく画像としてとらえられないことであり、もう一つは診断手段が肛門と陰囊の間から前立腺の決まった場所に針を刺し組織を採取しがんの有無を判定するという方法（前立腺針生検）なのですが、これは画像でがんが写らないためがんを狙った生検ではなく、検査でがん無しの判定であっても、がんが針の間をすり抜ける可能性があるため、疑いは低くはなるが最終的にがんを否定するわけにはいかないという点にあります。

現在我々が前立腺がんを疑う一番の決め手は、PSA値（前立腺特異抗原）の上昇であり、このPSAはがんの特異的な抗原ではありませんが、臓器に特異的な抗原ですので、前立腺の病気以外では決して上昇しないと言う極めて有効な特徴があります。PSA値の正常値は2未満で、それ以上であっても必ずしもがんというわけではありませんが、4以上でがんを疑い精査の対象と考えています。そしてこのPSA値の高さによってがんの見つかる確率は全く異なります。

ちなみに昨年当科では125例の新たな前立腺がん患者さんを治療しましたが、そのうち42例は当科で診断し、83例は他の施設からの紹介でした。我々はこの42例を診断するためにちょうど100例の生検を

行いましたが、当科でのPSA値とがんの見つかった確率を示しますと、2-4:12.5%、4-10:35%、10-20:40%、20-40:75%、40以上:92%となります。またPSA値とがんの進行度もある程度比例しますので、できるだけ低いPSA値で診断したい(可能なら10以下)と言う希望があります。

さてこれまで前立腺がんであると公表された最近の有名人、特に各国の指導者では、ミッテラン元フランス大統領、ベルルスコーニ前イタリア首相、イランのホメイニ師、カンボジアのシアヌーク国王、米国のパウエル国務長官、ドール上院議員、ジュリアーニ前ニューヨーク市長、我国では森喜朗前首相がおられます。前立腺がんは進行があまり早くないものも多く、よほど進行した状態で診断されない限りはがんで命を落とす確率は少ない病気であると考えられています。しかし、その診断のためには針生検が必要で、しかも一度の生検でがん無しの結果でも再度の生検が必要な場合もあり、逆にある程度のPSA値を示すとその確率はかなり高くなるという事実があります。有名人の中にある程度進行した前立腺がんが多いのは、もしかすると再度の生検を避けたいという双方(?)の事情のために、がんである確率の高い20以上まで経過を観察したと言うようなことがあったのかもしれない。

当科では小泉純一郎首相のPSA値が4でも直ぐ生検を行います。男性の皆様は50歳をこえましたら一度PSA採血を受けることをお勧め致します。

Contents もくじ *****

前立腺がんの診断—その課題と有名人の前立腺がん	泌尿器科医長 永森 聡	1
医師の紹介		2~3
ふれあい看護フェスタを終えて	副看護師長 太田 真澄	4

医師の紹介

芳賀 智顕



平成12年旭川医科大学卒業。同第一内科入局。趣味：ドライブ、旅行、犬の散歩。多忙の日々が続いていますが充実しています。宜しくお願いします。

菅原 綾



4月から呼吸器科医師としてお世話になっています。6ヶ月間の予定で、肺がんの専門的な診療の研修を目的に、福島県立医科大学呼吸器科より参りました。短期間ではありますが、スタッフの一員として努力してまいりますのでよろしくお願い申し上げます。

竹内 裕



4月より呼吸器科に勤務することになりました、5年目の竹内裕と申します。
1年目北大病院、2年目函館中央病院、3年目岩見沢労災、4年目江別市立病院に勤務（研修）しておりました。
ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、1年間、よろしくお願いいたします。

山本 粹



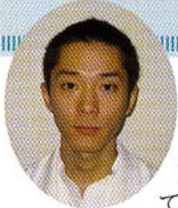
4月1日より市立小樽病院からきました呼吸器科レジデントの山本粹です。出身は三重県鈴鹿市です。まだわからないことばかりで皆サマにいろいろご迷惑をおかけすると思いますが、よろしくお願い致します。

櫻井 環



この度、消化器科に赴任して参りました櫻井と申します。患者さまのため、よりよい医療を提供すべく日々精進して参りますので宜しくお願い申し上げます。

佐藤 正法



4月から外科でレジデントとして勤務している佐藤正法です。卒後5年目になります。若輩ではありますが、外科の病棟管理、手術とがんばって働いています。3ヶ月という短期間ですが、よろしくお願い致します。

米積 昌克



卒後11年目で、前任の小川先生と同じく札幌北楡病院から来ました。血液内科は難しい疾患が多く、治療法も経過観察から骨髄移植まで幅広くあります。患者さんにはなるべく分かりやすい説明を心がけ、最善の方法を共に考えながら治療にあたりたいと思います。他科の先生やスタッフの力もお借りしつつ頑張ります。どうぞよろしくお願い致します。

小林 穂高



はじめまして。しょうにかのこばやしほだかです。4がつからはたらいています。きょねんは、はこだてにいました。子どもたちのびょうきがよくなって早くおうちにかえられるようおてつだいさせていただきます。ちりょうはつらいかもしれませんが、びょうきにまけないように、いっしょにがんばりましょう!!!

前田 好章



自己紹介させていただきます。平成5年北大卒業後、東京通信病院、北大病院第一外科、函館協会病院、久留米大学、札幌社会保険総合病院、溪和会江別病院等で外科の診療、研究に従事してまいりました。平成7年には当院乳腺外科で1年間勤務させていただきました。今後とも消化器外科の治療レベル、安全性の向上に努力し、一人でも多くのがん患者さんの治療に貢献したいと考えております。どうぞよろしくお願い致します。

渡邊 健一



4月1日付けで乳腺内分泌外科医師として着任した渡邊健一です。北大医学部を平成元年に卒業後、北大第一外科および関連病院で17年間診療と研究に携わってきました。前任は北大病院第一外科（乳腺甲状腺グループ）です。乳がんは増加しており、診療は日々進歩を続けています。乗り遅れることなく研鑽し、多くの患者さんに笑って頂けたらと思います。
よろしくお願い致します。

相馬 有



馬と昆布の町、浦河町（浦河は夏涼しく、冬は雪が積もらないので、年中快適です。ただし、夏には蛾が大量発生し、コンビニはセーコマしかありません。浦河の人たちは昆布採りの最中はあまり外来受診に来ません。馬関係の人は早く治してくれと無理を言います）から来ました。整形外科の相馬です。平成11年に札幌医大を何とか卒業して整形外科に入りました。最近自転車を買ったので、自転車と地下鉄で通っています。もう少し水温が上がったらスクーバダイビングをして、水中写真を撮ります。あとオセロが得意です。どうぞよろしくお願いいたします。

山根 尚子



4月から北海道がんセンター皮膚科に勤務となりました。平成9年に滋賀医科大学を卒業後皮膚科に入局し、今年で10年目になります。昨年より、北海道大学皮膚科に入局し、札幌に住むようになりました。札幌は思った以上に雪が多いですが、四季の花々が美しいのと野菜、果物、海産物が新鮮でおいしいので、とても快適です。熱意のあるスタッフの方々と、日々楽しく診療を行っていきたく思います。どうぞよろしくお願いいたします。

大澤 倫子



今年度より皮膚科レジデントとして勤務しております。昨年度は帯広で勤務していました。早く当院のシステムに慣れて皆様にご迷惑をおかけしないように働きたいと思っています。よろしくお願いいたします。

柳 輝希



皮膚科レジデントの柳輝希です。高校は旭川出身で、大学から現在まで札幌在住です。昨年は市内の斗南病院にて勤務し、今年4月からこちらで研修しています。これまでは外来中心に診療していましたが、今年は病棟業務を行っております。何卒よろしくお願いいたします。

丸山 寛



このたび泌尿器科に赴任いたしました。よろしくお願いいたします。
泌尿器科がとりあつかう臓器には膀胱、腎臓、前立腺、精巣、腎盂・尿管、副腎などがあります。それらに発生する悪性疾患について診断から治療（手術や化学療法、内分泌治療）までをおこないます。がんは早期発見・早期治療が重要ですが、とくに最近はそのが可能となってきております。是非ご相談ください。

野澤 明美



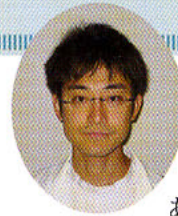
4月に着任した婦人科の野澤明美です。平成12年に旭川医科大学を卒業しました。生まれ育ったのは札幌ですが、ここ数年は道北や道東を転々としており5年ぶりの札幌暮らしです。5年前にこの病院がまだ国立札幌病院だった時に1年間研修医として勤めていたので、その時の担当患者さんにお会いすると、その元気な姿に思わず顔がほころんでしまいます。皆様と外来や病棟でお会いする機会があるかもしれません、その時はどうぞ宜しくお願いいたします。

吉澤 史子



眼科医師の吉澤史子です。これまで、北大病院、帯広協会病院、手稲溪仁会病院に勤務してまいりました。当院には、平成16年4月から平成17年2月まで勤務しており、今年4月からまた勤務することになりました。今年には北大病院で研修をされた山本哲平先生と2人体制となります。一般診療の他に白内障や翼状片、眼瞼内反等の手術にも力を入れておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

山本 哲平



今年の4月から眼科勤務となりました。今までは北海道大学病院眼科で3年間勤務していました。新しい環境になり、まだまだなれない点もありますが、心機一転頑張りますのでどうぞよろしくお願いいたします。

第25回 北海道がん講演会

日時 平成18年6月18日(日)
午後1時30分～午後4時

場所 京王プラザホテル札幌 2階エミネンスB
札幌市中央区北5条西7丁目

●北海道がんセンターの医師による講演

男性のがん、女性のがん

開会あいさつ……………北海道がんセンター 院長 山下 幸紀
司会……………副院長 内藤 春彦

1『卵巣がんと戦うために』……………産婦人科医長 加藤 秀則

2『進化する乳がん診療～手術、薬物療法、再発への対応～』
……………乳腺外科医長 田村 元

3『前立腺がんは男子の宿命か?～診断と治療の最前線～』
……………泌尿器科医師 柏木 明

閉会あいさつ……………北海道がんセンター 副院長 内藤 春彦

ふれあい看護フェスタを終えて

副看護師長 太田 真澄

5月12日は近代看護を築いたフローレンス・ナインゲールの誕生日にちなみ「看護の日」が制定されています。

今年も副看護師長会が中心となり、薬剤科、栄養科、検査科、事務部門、ボランティアなど各部門の方々の協力により、5月12日（金）当院外来ホールで看護の日普及イベント「ふれあい看護フェスタ」を開催しました。フェスタの目的は、地域市民と医療関係者が交流し、医療や看護のあり方を共に考えていくきっかけをつくることです。その目的のもとに、血圧測定・体脂肪測定・骨密度測定や栄養相談、薬の相談コーナーを設け、延べ155名の患者様とご家族の方に参加していただきました。限られた時間の中でたくさんの方々に参加していただくことができ、フェスタは大盛況のうちに終了しました。

また、北海高等学校・札幌白陵高等学校の高校生

9名を招待して「ふれあい看護体験」も同時に行いました。患者様とのふれあいを通して、看護することや人の命について理解と関心を深める機会を提供するため、高校生には各病棟に分かれ、清拭（体を拭くこと）、洗髪、足浴、車椅子移送などの看護体験をしてもらったり、看護技術演習では大講堂で、血圧測定・車椅子やストレッチャー移動・家庭でできる救急処置を実際に体験してもらいました。看護に興味がある、また看護師を目指しているという学生が多く、皆真剣に取り組んでいました。

このイベントに参加したことをきっかけに、より看護に対する関心を高めていただければ幸いです。最後に、協力していただいた各部門の方々、またフェスタや看護体験に参加して下さった皆様誠にありがとうございました。また来年もよろしくお願いいたします。

